

第2回までの委員会において大綱（素案）に対して頂いた意見への事務局の考え方

0. はじめに

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
「市の借金は市民が負う」という文言を入れるべきである。	(文言追加) 1 ページ下から7行目に「将来世代への責務」という表現の追加し、市民の負担を抑制する決意を示します。

3. 行財政改革の基本的な方針

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
出先機関の在り方についての検討が必要である。	(変更なし) 4 ページ、【推進の視点】④中、「広大な市域を踏まえた行政運営が求められており、本庁から離れた地域への効率的な行政サービスの提供体制の確立に向け取り組みます。」という表現がこれらの概念を包含しているものと考えます。

4. 行財政改革の基本的取組

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
プロジェクト指向による、コストを含めた事業全体のマネジメント担当の配置を検討しては。	(変更なし) 7 ページ、⑤中、「政策目的に基づき事務事業を効果的、効率的に処理し得る迅速な意思決定体制の確立を図るため、横の連携、流動的な人員配置を可能とする柔軟な組織体制を目指します。」という表現がこれらの概念を包含しているものと考えます。
職員定数や人件費の削減にあたって、モチベーションの低下を招いてはいけない。	(変更なし) 7 ページ、⑥、イ) 中、「職員の能力や実績に基づく合理的な人事管理を行うこと等を目的とした制度を導入することにより、職員の士気の維持・向上を目指します。」という表現がこれらの概念を包含しているものと考えます。
専門家の育成、職員のキャリアパスを考慮した人事が必要。	(変更なし) 7 ページ、⑥、ロ) 中、「新しい時代に適合する人材を育成」という表現がこれらの概念を包含しているものと考えます。
基金に依存すべきではない。	(変更なし) 8 ページ、上から2行目、「歳入に見合った財政構造への転換」という表現がこれらの概念を包含しているものと考えます。
老朽化した公共施設の更新による市債増加が懸念される。	(変更なし) 8 ページ、⑤、イ) 中、「他の公共施設との複合化や多機能化を図りつつ、最適配置」という表現が更新コストの抑制について包含しているものと考えます。

第2回までの委員会において大綱（素案）に対して頂いた意見への事務局の考え方

5. 行財政改革の基本的取組

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
<p>改革の推進体制について、市長以下、市職員のみからなる本部会議に外部人材を投入すべき。</p>	<p>(検討) 9 ページ (2) において記載の「推進本部」について、大綱に基づく推進計画の実行主体は市であること、また決定機関であり指揮命令系統を有する組織への外部人材の投入は馴染まないものと考えます。ただし、市民意見を反映する方法や仕組み、或いは透明性や客観性の担保については今後、検討して参ります。</p>
<p>推進体制における C (チェック) と A (アクション) が不透明である。また、C と A 練り直しが不十分であり、推進計画のレビューが定量的でない。</p>	<p>(追加) 9 ページ、(2) 中、「(前略) PDCA サイクルに基づく改革に取り組みます。」という表現を「(前略) PDCA サイクルに基づく改革に取り組むこととし、<u>北見市行政評価システムによる事業の効果や効率性等の評価結果を活用するなど、実効性の確保に努めます。</u>」とし、定量的なデータの活用と、C・A の実効性及について言及します。</p>
<p>大綱の策定過程だけでなく、推進計画の進捗と結果の公表についても言及すべきである。</p>	<p>(追加) 9 ページ、(3) 中に、「推進計画の進捗状況など」を追加することで対応します。</p>